

第14回ビジネス講座

「多様な MaaS の捉え方と取り組み例のご紹介」

概要

講師：藤垣氏



日時：平成31年4月15日（月）15:00～17:00

会場：横浜第2合同庁舎 関東運輸局 16階会議室

講師：小田急電鉄株式会社 経営戦略部 次世代モビリティチーム
藤垣 洋平 氏

参加者：78名



【セミナー概要】

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・物流・バリアフリー等を主なテーマに外部より講師を招いた公開講座を開催しています。

2019年度としては1回目、通算14回目となる今回は、4月15日（月）に「多様な MaaS の捉え方と取り組み例のご紹介」と題し、小田急電鉄株式会社 経営戦略部 次世代モビリティチーム 藤垣 洋平 氏にご講演いただきました。

藤垣氏は、東京大学工学部都市工学科および都市工学専攻の修士課程修了後、株式会社構造計画研究所で社会シミュレーションやデータ分析等の業務を担当され、2015年10月より、東京大学の都市工学専攻博士課程に入学、Mobility as a Service 等の統合モビリティサービスに関する研究を実施されました。2018年9月に博士課程を修了し、2019年1月より現職である小田急電鉄株式会社で MaaS などの次世代モビリティサービスに関する業務を担当されています。また、日本都市計画学会会員でもあられ、同学会の年間優秀論文賞を2013年・2018年に受賞されています。

講演では、前半に多様化している MaaS の定義や用法を、統合的な検索サービス・一体的な決済サービスなどの「統合型」と、自動運転・カーシェアリングなどの「新サービス型」の2種類に類型化し、フィンランドの統合型の事例をはじめ多くの事例を紹介しながら分かりやすく説明していただきました。また、公共交通が充実していない交通空白地域では MaaS がライドシェア(+自動運転)とみられがちで、公共交通が充実した都市では公共交通とシェアリングサービスの連携が強調されるなど、既存の交通手段の状況や都市環境により注目される MaaS の形が異なること、そして「人の移動の面倒を見ること」が MaaS の本質的な目的であることをご説明いただきました。新しい交通サービスを既存の交通サービスと組み合わせ、「チーム公共交通」で自家用車依存からの転換を目指すことが MaaS の発想であり、これにより地域公共交通の新展開が期待できるということでした。

後半は、小田急電鉄株式会社が実証実験を目指している MaaS について、検索技術構造や、他の事業者や自治体も使用できるデータ基盤等を含めご講演いただきました。

今回の講演で、統合型 MaaS を、イメージとして旅行会社が提供するパッケージツアーに例えて説明していただいたこと、MaaS というとタクシーを含む公共交通をメインに考えていましたが、カーシェアリングやシェアサイクル等も含めて考えて良いこと等、今までの思い込みや雑多に持っていた情報をロジカルに整理でき、大変勉強になりました。参加者にとっても、今後の業務の参考になったのではないかと思います。

【参加者感想】

- ・ MaaS の定義から活用のイメージまで、とても分かりやすく、理解できました。
- ・ 近年話題となっている MaaS の動向について知ることができて良かったです。
- ・ 一口に MaaS といっても、その中身は多様なため、いまいち理解できていなかったが、分かりやすく整理して下さり、とてもありがたかった。
- ・ ほぼ知識ゼロの状態ながら、とても分かりやすい講座でした
- ・ 資料も話しもとても分かりやすかったです。鉄道の新設における効果として、MaaS を活用した需要増が見込めると思われ、どのような検討が必要なのか気になりました。
- ・ 海外の公共交通は行政が運営しているケースが多いですが、日本は民間事業者が運営しております。移動サービスを全て包括し、利用者に分かりやすくシームレスになるのは非常に良いことですが、持続可能な公共交通システムと MaaS との関連について、今後未来展望を聞かせて欲しいです。
- ・ MaaS の拡がりが高齢社会における今後の車に関する交通事故を減少させることができるのではないかと感じました。とても興味深い内容だった。
- ・ MaaS を日本に浸透させるため、官民の協力が必要だと感じました。
- ・ 地方における MaaS の取組の参考にしたいと思います。

